



令和2年度
富士山麓外来植物等調査業務委託

報 告 書

(抜粋)

令和3年1月

株式会社 環境アセスメントセンター



図 1.6.1 水ヶ塚公園の調査地区

表 1.6.2 外来植物選定基準

法律等	カテゴリ	
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号）（最終改正：平成 26 年 6 月 13 日 法律第 69 号）【外来生物法】	特定外来生物 （最終更新：令和 2 年 11 月 2 日）	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの。
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（環境省報道発表資料「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」の公表について（お知らせ）、平成 27 年 3 月 26 日） 【生態系被害防止外来種リスト】	定着予防外来種	侵入予防外来種
		その他の定着予防外来種
	総合対策外来種	緊急対策外来種
		重点対策外来種
		その他の総合対策外来種
	産業管理外来種	産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系等への影響がより小さく、同等程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。利用にあたっては種ごとに示す利用上の留意事項（注 2）に沿って適切に管理を行うことを呼びかけるもの。

注 1) 緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方

（被害の深刻度）

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす

（対策の実効性、実行可能性）

- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

注 2) 利用上の留意事項

産業管理外来種については、利用の回避・抑制、侵略性のない代替種の開発・普及又はリスクを低減若しくは抑制するための管理の実施・普及が期待される。掲載種には種毎に利用状況や利用上の留意事項を記載しており、産業管理外来種については利用上の留意事項に沿って適切な管理を行うことが期待される。

2.2 外来植物

2.2.1 結果概要

外来植物は、4 科 11 種 604 地点 5,347 個体を確認した。11 種全てが生態系被害防止外来種で特定外来生物の確認はなかった。また、ネズミムギは過年度（平成 26 年度～平成 31 年度）の調査で確認がなく、本調査が初確認である。外来植物の確認状況を表 2.2.1 に示す。

調査地区別では、臨時駐車場が 310 地点 2,255 個体で最も多く、次いで駐車場、ふれあい広場、雪遊び広場の順であった。駐車場や臨時駐車場は、アスファルト舗装が敷設されているが、舗装の割れ目、縁石の隙間、植え込みなど、外来植物の侵入しやすい環境が多くあり、また人による影響を強く受けていることから外来植物が多く確認されたと考えられる。

種別では、セイヨウタンポポが 358 地点 2,461 個体で最も多く、4 調査地区の全てで地点数及び個体数が最も多かった。オオアワガエリは草地環境の雪遊び広場、ふれあい広場での確認が多かった。ハルザキヤマガラシは臨時駐車場での確認がほとんどで、雪遊び広場、ふれあい広場での確認はなかった。

表 2.2.1 外来植物確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		調査地区								全体	
					駐車場		臨時駐車場		雪遊び広場		ふれあい広場			
			外来生物法	外来種リスト	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数
1	イネ	コスカグサ		産業			7	82			1	100	8	182
2		カモガヤ		産業	2	22	3	5					5	27
3		ネズミムギ※1		産業	1	1	1	1					2	2
4		オオアワガエリ		産業	13	72	3	17	15	656	15	496	46	1,241
5		ナギナタガヤ		産業			2	30					2	30
6	アブラナ	ハルザキヤマガラシ		その他	5	5	60	665					65	670
7	タデ	ヒメスイバ		その他	2	63	2	90					4	153
8		エゾノギシギシ		その他	17	74	2	4					19	78
9	キク	ヒメジョオン		その他	5	11	68	287	17	194	2	8	92	500
10		セイタカアワダチソウ		重点	2	2			1	1			3	3
11		セイヨウタンポポ※2		重点	93	577	162	1,074	20	151	83	659	358	2,461
合計	4 科	11 種	0 種	11 種	140	827	310	2,255	53	1,002	101	1,263	604	5,347

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 重点：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） 重点対策外来種
 その他：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） その他の総合対策外来種
 産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）

※1：ネズミムギは生態系被害防止外来種リストの「ドクムギ属」に該当する。

※2：セイヨウタンポポは生態系被害防止外来種リストの「外来性タンポポ種群」に該当する。

2.2.2 種ごとの確認状況

外来植物の種ごとの確認状況を次項に示す。外来植物の解説については、主に環境省ホームページにおいて公表されている「生態系被害防止外来種リスト選定の根拠情報」より引用したが、必要に応じて「要注意外来生物に係る情報及び注意事項（環境ホームページ）※要注意外来生物リストは平成 27 年 3 月 26 日をもって発展的に解消されている」や図鑑等から引用し整理した。

(1) 総合対策外来種（重点対策外来種）

甚大な被害が予想されるため、特に、各主体（国、地方公共団体、国民等）のそれぞれの役割における対策の必要が高いと定義される、総合対策外来種（重点対策外来種）は、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポの 1 科 2 種を確認した。

1) セイタカアワダチソウ（キク科）

セイタカアワダチソウは、駐車場で2地点2個体、雪遊び広場で1地点1個体、計3地点3個体を確認した。

確認地点の環境はアスファルト舗装の割れ目、開けた明るい草地であった。開花、結実の確認はなかった。

セイタカアワダチソウの種の解説を以下に示す。

表 2.2.2 種の解説（セイタカアワダチソウ）

種名等 ¹⁾	セイタカアワダチソウ（キク科） 別名・流通名：セイタカアキノキリンソウ
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	（被害の深刻度） ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	湿原・湿地
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布する。国内へは観賞用植物として明治時代（1897年頃）に渡来、大正末期から野生化、戦後、急速に分布拡大。北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布する。
特徴 ^{1), 2)}	多年草。高さ2.5m。花期は8-11月。頭状花。虫媒花。瘦果は風などにより伝播される。地下茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	路傍、空地、河川敷、土手、原野、休耕地に大群落を作る。造成によって攪乱された環境が増えると繁殖する。
影響 ¹⁾	湿原、草原、河川敷、奄美地域など、生物多様性の保全上重要な環境や地域、または農業上問題となる場所では、対策の対象になっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.3 セイタカアワダチソウの確認状況

	
セイタカアワダチソウ (令和2年8月6日撮影)	生育環境 (令和2年8月6日撮影)

表 2.2.4 セイタカアワダチソウ確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		調査地区								全体	
					駐車場		臨時駐車場		雪遊び広場		ふれあい広場			
			外来生物法	外来種リスト	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数
10	キク	セイタカアワダチソウ		重点	2	2			1	1			3	3

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 重点：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） 重点対策外来種



図 2.2.1 セイタカアワダチソウの確認位置図（水ヶ塚公園）

2) セイヨウタンポポ（キク科）

セイヨウタンポポは、駐車場で 93 地点 577 個体、臨時駐車場で 162 地点 1,074 個体、雪遊び広場で 20 地点 151 個体、ふれあい広場で 83 地点 659 個体、計 358 地点 2,461 個体を確認した。セイヨウタンポポは、水ヶ塚公園に広く分布し、特に駐車場、臨時駐車場で確認が多かった。

確認地点の環境は、アスファルト舗装の割れ目、縁石の隙間、植え込み、草地であった。5 月、8 月の調査で開花、結実を確認した。

セイヨウタンポポの種の解説を以下に示す。

表 2.2.5 種の解説（セイヨウタンポポ）

種名等 ¹⁾	セイヨウタンポポ（キク科） 生態系被害防止外来種リストにおける種名：外来性タンポポ種群
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	(被害の深刻度) ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	自然草原や高山
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。世界中に分布する。国内へは 1940 年に北海道に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原に分布する。
特徴 ^{1),2)}	多年草。高さは 10-40cm。花期は 3-5 月。単為生殖により結実する。瘦果は風、雨、動物、人間などにより伝播される。根茎切片による繁殖力は強く、どの部分の切片からも出芽する。
生育環境等 ¹⁾	市街地、道端、空き地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場まで生育する。
影響 ^{1),2)}	繁殖力が強く、国立公園内の亜高山帯等の自然性の高い環境にも侵入し、在来種との競合のおそれがある。在来種との雑種が全国的にみられ、遺伝的攪乱が既に広く起こっていることが確認されている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.6 セイヨウタンポポの確認状況



セイヨウタンポポ

(令和 2 年 5 月 25 日撮影)

生育環境

(令和 2 年 5 月 25 日撮影)

表 2.2.7 セイヨウタンポポ確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		調査地区								全体	
					駐車場		臨時駐車場		雪遊び広場		ふれあい広場			
			外来生物法	外来種リスト	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数
11	キク	セイヨウタンポポ [※]		重点	93	577	162	1,074	20	151	83	659	358	2,461

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
- ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)

【カテゴリ】重点：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） 重点対策外来種

※：セイヨウタンポポは生態系被害防止外来種リストの「外来性タンポポ種群」に該当する。

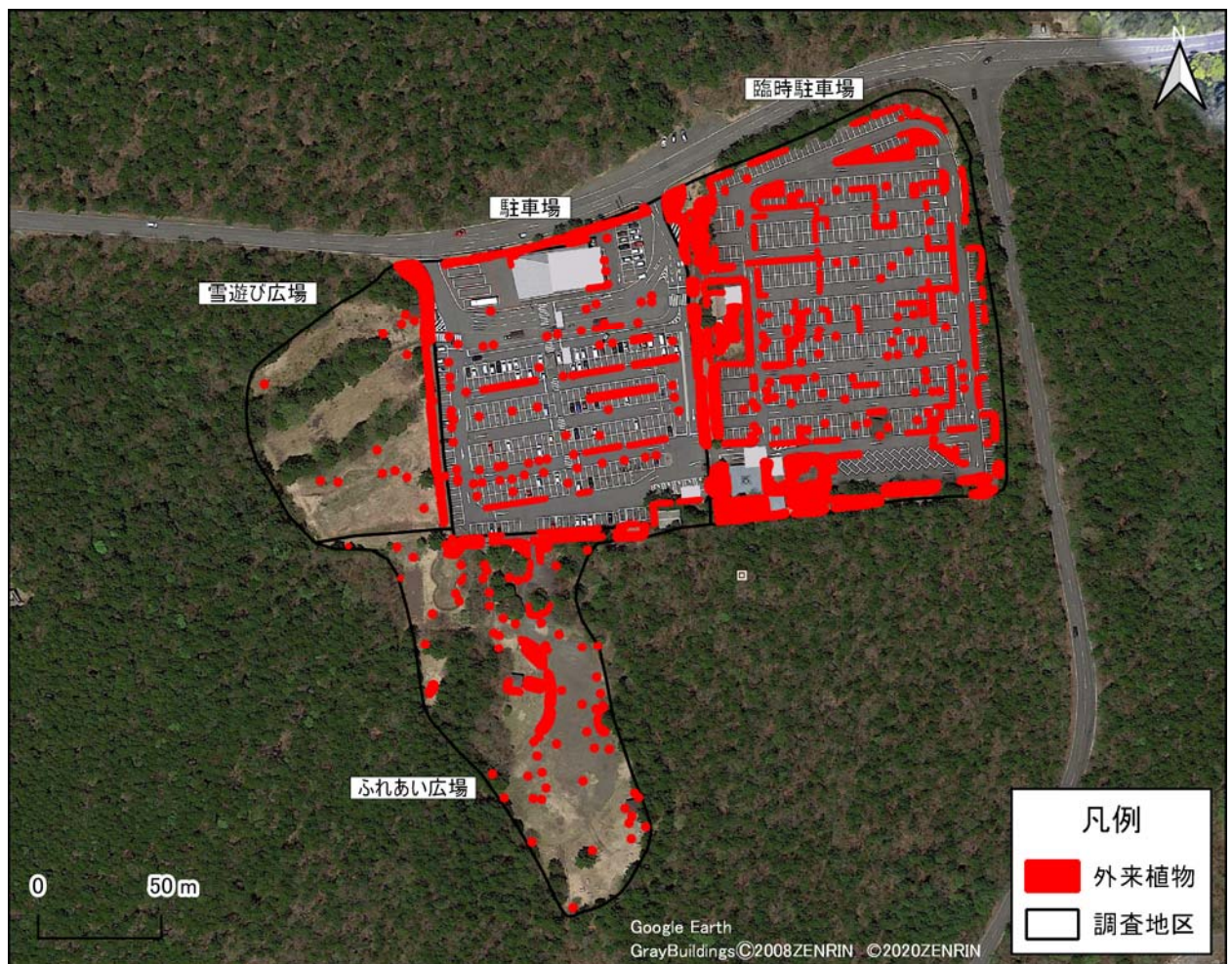


図 2.2.2 セイヨウタンポポの確認位置図（水ヶ塚公園）

(2) 総合対策外来種（その他の総合対策外来種）

総合対策外来種（その他の総合対策外来種）は、ハルザキヤマガラシ、ヒメスイバ、エゾノギシギシ、ヒメジョオンの3科4種を確認した。

1) ハルザキヤマガラシ（アブラナ科）

ハルザキヤマガラシは、駐車場で5地点5個体、臨時駐車場で60地点665個体、計65地点670個体を確認した。ハルザキヤマガラシは臨時駐車場での確認がほとんどであった。

確認地点の環境は、林縁、アスファルト舗装の割れ目、縁石の隙間、植え込み等であった。5月の調査で開花、8月の調査で結実を確認した。

ハルザキヤマガラシの種の解説を以下に示す。

表 2.2.8 種の解説（ハルザキヤマガラシ）

種名等 ¹⁾	ハルザキヤマガラシ（アブラナ科） 別名・流通名：-
外来植物 選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	亜高山帯、河川敷
原産地・分布 ¹⁾	原産地不明。ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカなどに広く分布する。日本へは明治時代末年に渡来、1960年頃に野生化、北海道、本州、四国、九州に分布。
特徴 ¹⁾	越年草～短命な多年草。高さは20-90cm。花期は5月。長角果は風、雨、動物、人間により伝播される。1個体辺りの種子生産量は40,000-116,000個との報告がある。根茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	川岸、用水路端、畦畔、牧草地、畑地、水田、荒地、道端のほか、山地の林道沿いにもみられる。冷涼で日当たりがよく、湿った肥沃地を好む。標高1,800m以上の亜高山帯に生育している事例もある。
影響 ²⁾	八ヶ岳中信高原国定公園にある霧ヶ峰では、ハルザキヤマガラシが増加し、在来種と競合のおそれがあるため、駆除作業が行われている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ（<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>）

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ（<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>）

表 2.2.9 ハルザキヤマガラシの確認状況

	
ハルザキヤマガラシ (令和2年5月25日撮影)	生育環境 (令和2年5月25日撮影)

表 2.2.10 ハルザキヤマガラシの確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		調査地区								全体	
					駐車場		臨時駐車場		雪遊び広場		ふれあい広場			
			外来生物法	外来種リスト	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数
6	アブラナ	ハルザキヤマガラシ		その他	5	5	60	665					65	670

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 その他：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） その他の総合対策外来種

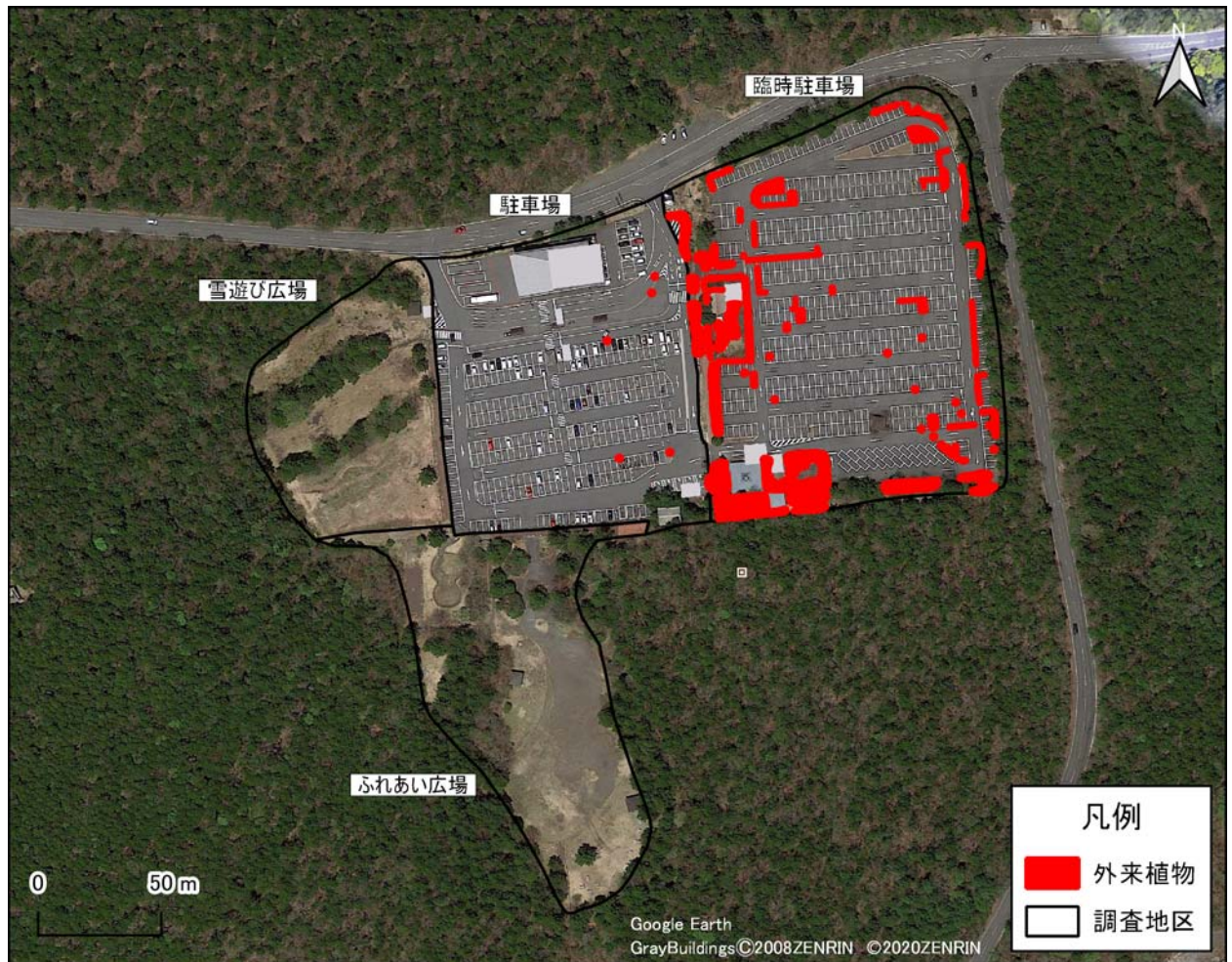


図 2.2.3 ハルザキヤマガラシの確認位置図（水ヶ塚公園）

2) ヒメスイバ（タデ科）

ヒメスイバは、駐車場で2地点63個体、臨時駐車場で2地点90個体、計4地点153個体を確認した。

確認地点の環境は、草地、植え込みであった。5月の調査で開花を確認した。

ヒメスイバの種の解説を以下に示す。

表 2.2.11 種の解説（ヒメスイバ）

種名等 ¹⁾	ヒメスイバ（タデ科） 別名・流通名：－
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	IV.生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。 V.生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もある。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	海岸砂浜、山地草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。ヨーロッパ、アジア、アフリカ、南北アメリカ、オセアニアに分布。温帯～寒帯を中心に分布し、熱帯～亜熱帯の河内にも広がる。日本へは明治初期に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。
特徴 ^{1),2)}	多年草。高さは50cm。花期は4-7月。種子と根茎により繁殖する。種子の伝播は風、雨、動物等による。種子に休眠性がある。アレロパシー作用がある。シュウ酸を含む。
生育環境等 ¹⁾	芝地、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。ときに亜高山帯まで侵入する。日当たりの良い湿地～半湿地を好む。pHの低い所に適応する。日陰地では生育が悪い。
影響 ²⁾	河川で増加しており、砂浜への侵入が危惧されている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ（<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>）

出典 2) 清水建美(2003)日本の帰化植物, 平凡社.

表 2.2.12 ヒメスイバの確認状況

	
ヒメスイバ (令和2年5月25日撮影)	生育環境 (令和2年5月25日撮影)

表 2.2.13 ヒメスイバの確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		調査地区								全体	
					駐車場		臨時駐車場		雪遊び広場		ふれあい広場			
			外来生物法	外来種リスト	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数
7	タデ	ヒメスイバ		その他	2	63	2	90					4	153

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 その他：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） その他の総合対策外来種



図 2.2.4 ヒメスイバの確認位置図（水ヶ塚公園）

3) エゾノギシギシ（タデ科）

エゾノギシギシは、駐車場で 17 地点 74 個体、臨時駐車場で 2 地点 4 個体、計 19 地点 78 個体を確認した。

確認地点の環境は、林縁、アスファルト舗装の割れ目、植え込みであった。8 月の調査で開花、結実を確認した。

エゾノギシギシの種の解説を以下に示す。

表 2.2.14 種の解説（エゾノギシギシ）

種名等 ¹⁾	エゾノギシギシ（タデ科） 別名・流通名：ヒロハギシギシ
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	亜高山帯の自然草原や湿地、ノダイオウなどの在来ギシギシ類の生育地周辺
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。北アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカに分布。国内へは明治中期頃に渡来。北海道、本州、四国、九州に分布する。
特徴 ^{1),2)}	多年草。高さは 0.5-1.3m。花期は 6-9 月。両性花。瘦果は風、雨、飼料に混入して伝播される。1 個体当たりの種子の生産量は 5,000-100,000 個、種子の寿命は 20 年以上との報告がある。根茎による繁殖力が強い。周年にわたって発生、生育し、耐寒性が強い。
生育環境等 ¹⁾	牧草地、樹園地、芝地、畑地、路傍、川岸、荒地、林地に生育する。耐寒性が強いので、亜高山帯の自然公園などにも侵入する。
影響 ²⁾	北海道や、本州の亜高山帯にある国立・国定公園など、自然性の高い環境や希少種の生育環境に侵入し、駆除の対象になっている。世界的に牧草地、樹園地の強害雑草として知られている。一度圃場に入り込むと短期間で拡大する。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.15 エゾノギシギシの確認状況

	
エゾノギシギシ (令和 2 年 8 月 6 日撮影)	生育環境 (令和 2 年 8 月 6 日撮影)

表 2.2.16 エゾノギシギシ確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		調査地区								全体	
					駐車場		臨時駐車場		雪遊び広場		ふれあい広場			
			外来生物法	外来種リスト	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数
8	タデ	エゾノギシギシ		その他	17	74	2	4					19	78

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 その他：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） その他の総合対策外来種



図 2.2.5 エゾノギシギシの確認位置図（水ヶ塚公園）

4) ヒメジョオン（キク科）

ヒメジョオンは、駐車場で5地点11個体、臨時駐車場で68地点287個体、雪遊び広場で17地点194個体、ふれあい広場で2地点8個体、計92地点500個体を確認した。ヒメジョオンは、水ヶ塚公園に広く分布し、特に、臨時駐車場、雪遊び広場で確認が多かった。

確認地点の環境は、林縁、アスファルト舗装の割れ目、植え込み、草地であった。8月の調査で開花を確認した。

ヒメジョオンの種の解説を以下に示す。

表 2.2.17 種の解説（ヒメジョオン）

種名等 ¹⁾	ヒメジョオン（キク科） 別名・流通名：－
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	山地や亜高山帯の草原
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。国内へは江戸時代末期に渡来、明治初年には広く分布。北海道～九州に分布。
特徴 ^{1), 2)}	一年草。高さ0.3～1.5m。花期は6～10月。瘦果は、風、雨、動物、人間により伝播される。1個体当たりの種子生産量は47,923個、種子の寿命が35年にも及ぶとの報告がある。根茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。土壌の種類を選ばない。低地から高山地帯まで生える。
影響 ^{1), 2)}	農耕地の雑草になるとともに、国立公園の亜高山帯のような自然性の高い環境にも侵入し、在来植物との競合が問題となる。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.18 ヒメジョオン確認状況

	
ヒメジョオン (令和2年8月6日撮影)	生育環境 (令和2年8月6日撮影)

表 2.2.19 ヒメジョオン確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		調査地区								全体	
					駐車場		臨時駐車場		雪遊び広場		ふれあい広場			
			外来生物法	外来種リスト	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数
9	キク	ヒメジョオン		その他	5	11	68	287	17	194	2	8	92	500

注) 外来植物選定基準

- ・ 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・ 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 その他：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） その他の総合対策外来種

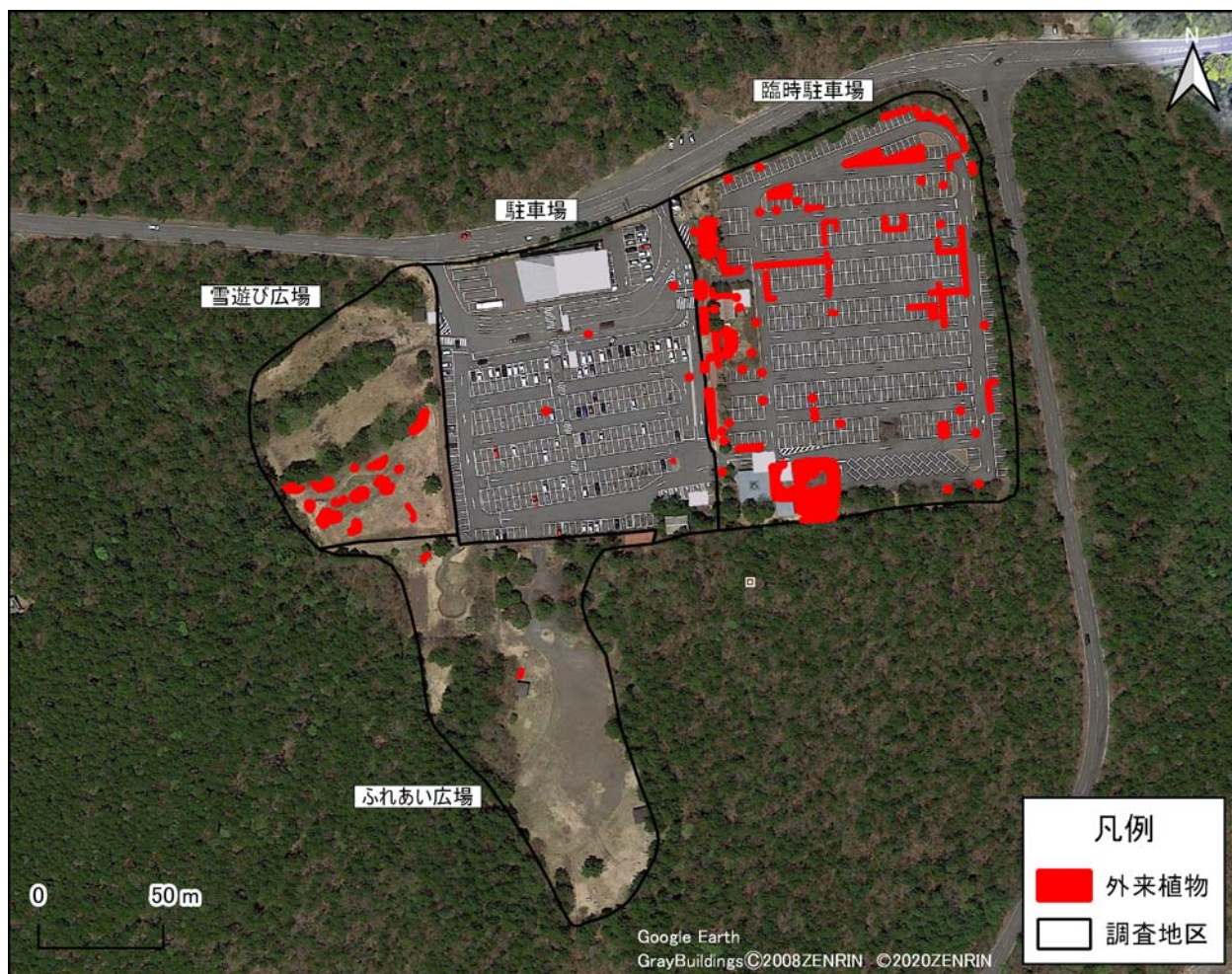


図 2.2.6 ヒメジョオンの確認位置図（水ヶ塚公園）

(3) 産業管理外来種

産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要と定義される、産業管理外来種は、コヌカグサ、カモガヤ、ネズミムギ、オオアワガエリ、ナギナタガヤの1科5種を確認した。

1) コヌカグサ（イネ科）

コヌカグサは、臨時駐車場で7地点82個体、ふれあい広場で1地点100個体、計8地点182個体を確認した。

確認地点の環境は、林縁、草地であった。8月調査時に開花、結実を確認した。

コヌカグサの種の解説を以下に示す。

表 2.2.20 種の解説（コヌカグサ）

種名等 ¹⁾	コヌカグサ（イネ科） 別名・流通名：レッドトップ
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	河川敷、絶滅危惧種のヌカボ属の生育地周辺
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。北アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯～亜寒帯に分布。合衆国やカナダで侵略的。国内へは明治初年に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球（奄美大島）に分布する。
特徴 ^{1),3)}	多年草。茎は0.5-1m。種子、地下茎及び匍匐茎で繁殖する。小穂は長さ2-2.5mm、少し光沢があって赤褐色をおびる。花期は5-7月。
生育環境 ¹⁾	畑地、牧草地、樹園地、路傍、草原、湿地、水辺などに生育する。日当たりの良い所を好む。耐寒性が強く、強酸性土壌に生え、耐旱性もある。湿潤であれば土壌の種類を選ばないが、一般に粘質土壌～壤土に多く、やせた土地にも適応する。
影響 ¹⁾	青森県や栃木県では自然草原に侵入し、問題となっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 大橋広好, 門田裕一, 木原浩, 邑田仁, 米倉浩司 (2016) 改訂新版日本の野生植物 2 イネ科～イラクサ科, 平凡社.

表 2.2.21 コヌカグサの確認状況

	
コヌカグサ	生育環境
(令和2年8月6日撮影)	
(令和2年8月6日撮影)	

表 2.2.22 コヌカグサ確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		調査地区								全体	
					駐車場		臨時駐車場		雪遊び広場		ふれあい広場			
			外来生物法	外来種リスト	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数
1	イネ	コヌカグサ		産業			7	82			1	100	8	182

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)



図 2.2.7 コヌカグサの確認位置図(水ヶ塚公園)

2) カモガヤ（イネ科）

カモガヤは、駐車場で2地点22個体、臨時駐車場で3地点5個体、計5地点27個体を確認した。

確認地点の環境は、林縁、草地であった。5月、8月調査時に開花、結実を確認した。

カモガヤの種の解説を以下に示す。

表 2.2.23 種の解説（カモガヤ）

種名等 ¹⁾	カモガヤ（イネ科） 別名・流通名：オーチャードグラス
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	山地草原
原産地・分布 ¹⁾	地中海～西アジア原産。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等の温帯に分布。 国内へは1861～1864年（文久年間）に渡来。1868年（明治初年）にアメリカから導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。
特徴 ^{1), 2)}	多年草。高さ0.4～1.5m。開花期は7～8月。種子の生産量は多く、風、雨、人間、動物に付着して運ばれるほか、家畜に食べられても生存し、糞に伴って遠方に運ばれる場合がある。土壌中における種子の生存期間は4年以上に及ぶ。根茎により繁殖するが、根茎は短く匍匐茎を伸ばさない。再生力は旺盛である。
生育環境 ¹⁾	畑地、樹園地、路傍、荒地、土手、草地、河川敷、林縁、湿地、沿岸域等に生育する。日当たりの良い温暖地で、肥沃な所を好むが、環境適応性は幅広い。耐陰性が強いことが特徴である。
影響 ¹⁾	北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.24 カモガヤ確認状況

	
カモガヤ (令和2年5月25日撮影)	生育環境 (令和2年5月25日撮影)

表 2.2.25 カモガヤ確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		調査地区								全体	
					駐車場		臨時駐車場		雪遊び広場		ふれあい広場			
			外来生物法	外来種リスト	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数
2	イネ	カモガヤ		産業	2	22	3	5					5	27

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)



図 2.2.8 カモガヤの確認位置図(水ヶ塚公園)

3) ネズミムギ（イネ科）

ネズミムギは、駐車場で1地点1個体、臨時駐車場で1地点1個体、計2地点2個体を確認した。

確認地点の環境は舗装の割れ目であった。8月調査時に開花、結実を確認した。

ネズミムギの種の解説を以下に示す。

表 2.2.26 種の解説（ネズミムギ）

種名等 ¹⁾	ネズミムギ（イネ科） 生態系被害防止外来種リストにおける種名：ドクムギ属 別名・流通名：イタリアンライグラス
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	河川や自然草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。世界の温帯～暖帯に分布。明治時代に牧草、緑化用に各地に導入。野生化し、現在では全国に分布する。
特徴 ^{1), 2)}	一年～多年草。高さは1.0m程度。花期は6-8月。両性花。風媒花。種子生産能力は高い。穎果は雨、風、動物、人間により伝播される。根茎による栄養繁殖を行う。
生育環境等 ¹⁾	畑地、樹園地、路傍、空き地、荒地に生育する。日当たりの良い、温暖な肥沃地を好む。
影響 ¹⁾	河川での分布拡大のほか、法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、河川敷への侵入が問題となっている。また、北海道の各地の国立・国定公園など、希少種の生育環境に侵入しており、駆除の対象となっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.27 ネズミムギの確認状況

	
ネズミムギ	生育環境
（令和2年8月6日撮影）	
	（令和2年8月6日撮影）

表 2.2.28 ネズミムギ確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		調査地区								全体	
					駐車場		臨時駐車場		雪遊び広場		ふれあい広場			
			外来生物法	外来種リスト	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数
3	イネ	ネズミムギ		産業	1	1	1	1					2	2

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)



図 2.2.9 ネズミムギの確認位置図(水ヶ塚公園)

4) オオアワガエリ（イネ科）

オオアワガエリは、駐車場で 13 地点 72 個体、臨時駐車場で 3 地点 17 個体、雪遊び広場で 15 地点 656 個体、ふれあい広場で 15 地点 496 個体、計 46 地点 1,241 個体を確認した。オオアワガエリは雪遊び広場、ふれあい広場で確認が多かった。

確認地点の環境は、縁石の隙間、草地であった。5 月、8 月の調査で開花、結実を確認した。

オオアワガエリの種の解説を以下に示す

表 2.2.29 種の解説（オオアワガエリ）

種名等 ¹⁾	オオアワガエリ（イネ科） 別名・流通名：チモシー
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	亜高山帯や山地の草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパからシベリア原産。ヨーロッパ、アジア、オセアニア、北アメリカ、南アメリカの温帯に分布する。国内へは明治初期に入り、北海道、本州、四国、九州に分布。
特徴 ^{1),2)}	多年草。高さ 0.5-1m。開花期は 6-8 月。両性花。風媒花。茎の基部節間が肥大した球茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	畑地、樹園地、路傍、荒地に生育する。冷涼で多湿の気候を好み、肥沃な日当たりの良いところに多い。
影響 ^{1),2)}	自然草原への侵入が問題となっている。北海道や、本州の亜高山帯にある国立・国定公園など、自然性の高い環境や希少種の生育環境に侵入し、駆除の対象になっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.30 オオアワガエリ確認状況

	
オオアワガエリ (令和 2 年 5 月 25 日撮影)	生育環境 (令和 2 年 5 月 25 日撮影)

表 2.2.31 オオアワガエリ確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		調査地区								全体	
					駐車場		臨時駐車場		雪遊び広場		ふれあい広場			
			外来生物法	外来種リスト	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数
4	イネ	オオアワガエリ		産業	13	72	3	17	15	656	15	496	46	1,241

注) 外来植物選定基準

- ・ 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・ 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）

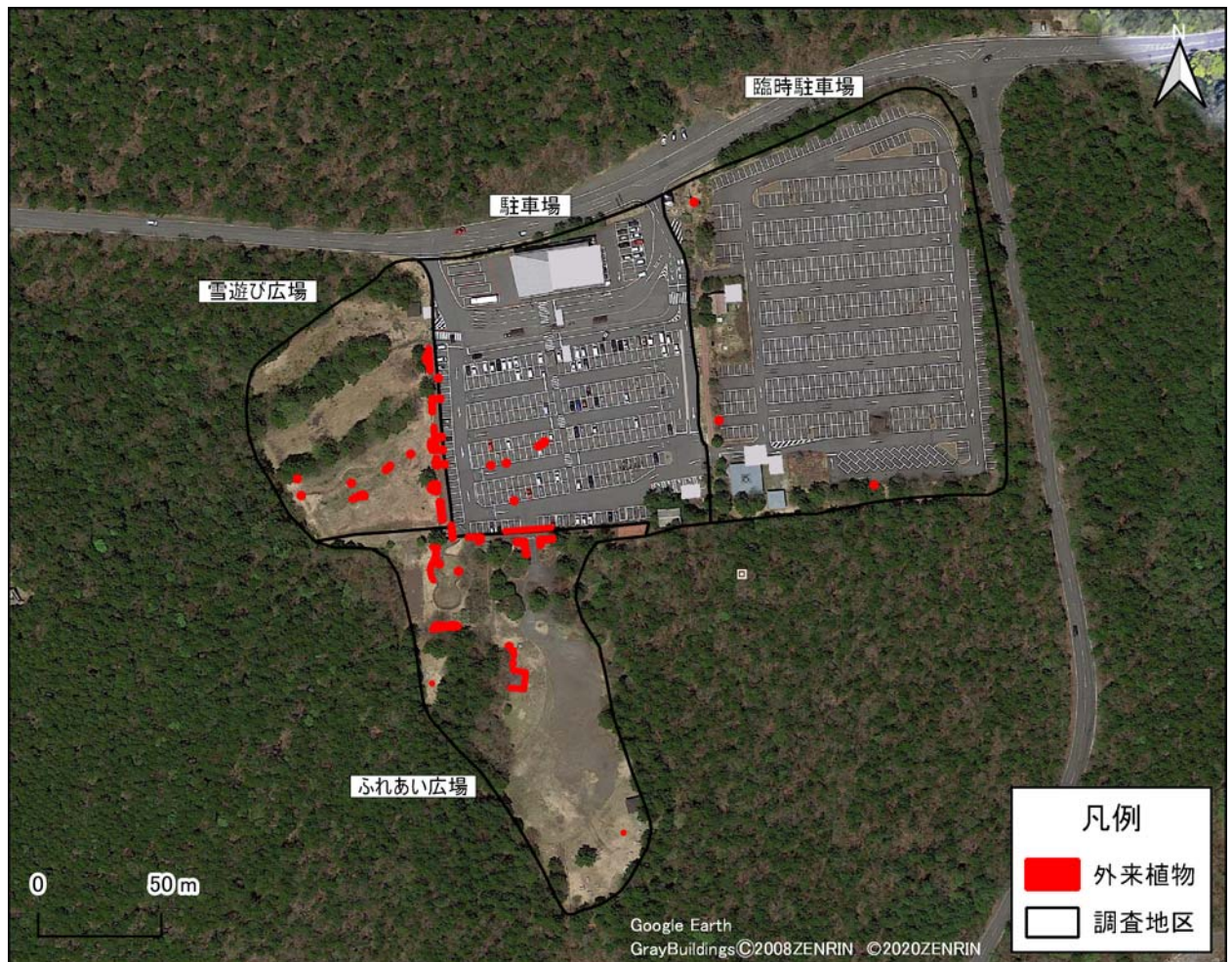


図 2.2.10 オオアワガエリの確認位置図（水ヶ塚公園）

5) ナギナタガヤ（イネ科）

ナギナタガヤは、臨時駐車場で2地点30個体を確認した。

確認地点の環境は草地であった。8月調査時に開花、結実を確認した。

ナギナタガヤの種の解説を以下に示す。

表 2.2.32 種の解説（ナギナタガヤ）

種名等 ¹⁾	ナギナタガヤ（イネ科） 別名・流通名：ネズミノシッポ
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	IV.生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	海岸砂地、草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ～西アジア原産。アフリカ、アジア、オーストラリア、南北アメリカ、大西洋諸島、太平洋諸島などの温帯～暖帯に分布する。オーストラリアでは侵略的である。国内へは明治初年に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。
特徴 ^{1),3)}	一年草。高さ0.6m。株立ちとなって根茎がなく、全体に粉緑色をおびる。花期は5-6月。
生育環境等 ¹⁾	畑地、牧草地、庭、路傍、荒地などに生育する。日当たりの良い砂質土壌を好む。海辺の砂地、乾いた草地に多い。
影響 ¹⁾	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で分布を拡大している。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 大橋広好, 門田裕一, 木原浩, 邑田仁, 米倉浩司(2016)改訂新版日本の野生植物 2 イネ科～イラクサ科, 平凡社.

表 2.2.33 ナギナタガヤ確認状況



ナギナタガヤ

(令和2年8月6日撮影)

生育環境

(令和2年8月6日撮影)

表 2.2.34 ナギナタガヤ確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		調査地区								全体	
					駐車場		臨時駐車場		雪遊び広場		ふれあい広場			
			外来生物法	外来種リスト	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数	地点数	個体数
5	イネ	ナギナタガヤ		産業			2	30					2	30

注) 外来植物選定基準

- ・ 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・ 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）



図 2.2.11 ナギナタガヤの確認位置図（水ヶ塚公園）